

和歌山県損害保険防犯対策連絡協議会総会を開催

～損害保険事業の健全な発展のため、損保業界と関係機関が連携することの重要性を確認～

日本損害保険協会近畿支部委員会（委員長：東口 嘉仁・三井住友海上火災保険株式会社 常務執行役員 関西地区担当）では、6月16日（火）、和歌山市内で、令和8年度和歌山県損害保険防犯対策連絡協議会総会を開催し、来賓・顧問・会員など32名の出席がありました。

総会開会に際し、和歌山県損害保険防犯対策連絡協議会の中村 元会長（三井住友海上火災保険株式会社 和歌山支店長）から、関係各位の連携・協力を謝辞を伝えるとともに、「交通事故などに関して、不当要求や保険金詐欺は依然として後を絶たないが、和歌山県警察の協力により、近年も複数の保険金詐欺事件の摘発・解決が進んでいる。今後とも関係各位で連携し、不当不正請求の排除、保険金に絡む犯罪の防止に向けて一層努力していきたい」との挨拶がありました。

来賓の和歌山弁護士会の吉澤 尚美会長からは、「昨今、保険金詐欺の手口は巧妙化、組織化している。ますます悪質化、巧妙化する偽装請求に対して適切な対応をするためには、保険会社間や関係機関との連携が大切であり、本協議会の果たす役割は極めて重要であると考えます。弁護士会としても、本協議会の活動に協力したい」との挨拶がありました。

同じく来賓の和歌山県損害保険代理業協会の角 卓哉会長からは、「損害保険は社会のインフラであり、保険金詐欺は制度の信頼を毀損する重大犯罪である。代理店は地域密着の立場から、不審兆候の早期察知と情報提供の役割を担っていきたい」との挨拶がありました。

当協議会顧問である和歌山県警察本部の林 達也刑事部長からは、「暴力団員数は減少傾向であるが、活動の不透明化、資金獲得活動の巧妙化が進んでいる。また、匿名・流動型犯罪グループによる多様な犯罪、収益の暴力団への流入の可能性が高まっている。損害保険を悪用した犯罪の排除、検挙を引き続き推進していくので連携していただきたい」との挨拶がありました。

続いて、当協議会の高幹事（損害保険ジャパン株式会社）から、令和7年度の活動報告および令和8年度の活動計画の提案があり、令和8年度は、保険金詐欺の疑いが持たれる対象者の対策や、悪質レッカー業者等による消費者トラブル事案に係る注意喚起・啓発の強化等に取り組むことが満場一致で承認されました。

次いで、当協議会の櫻谷幹事（AIG損害保険株式会社）から、「損害保険事業の社会公共性に鑑み、警察との緊密な連携のもとあらゆる暴力や犯罪を排除し、事業の健全な発展をはかる」旨の決意文が読み上げられ全員一致で採択し、その意思を確固たるものにしました。

総会終了後の講演では、和歌山弁護士会民暴・非弁対策委員会の上岡 勇介委員長から「不当要求と非弁行為」と題して、不当要求、非弁行為における最新事例と事例ごとの法的対応も含む具体的な対策について講演いただきました。続いて、和歌山県警察本部刑事部組織犯罪対策課の尾西 弘之課長補佐から「最近の暴力団情勢について」と題して、匿名・流動型犯罪グループの犯罪手口、被害状況、和歌山県警察の対応について報告いただきました。最後に、和歌山県警察本部交通部交通指導課の榎本 充孝課長補佐から「交通特殊事件捜査」と題して、交通特殊事件捜査係の担当領域の説明、昨年度の検挙事案を報告いただきました。

当支部では、和歌山県警察本部や関係諸機関・団体と連携し、民事介入暴力対策および不当不正請求対策を進め、健全な損害保険事業の運営を通じた地域の安心・安全に貢献してまいります。

令和8年度 和歌山県損害保険防犯対策連絡協議会総会 式次第

第1部 総会

1. 開会の辞
2. 来賓挨拶
 - ・和歌山弁護士会 会長 吉澤 尚美 様
 - ・一般社団法人和歌山県損害保険代理業協会 会長 角 卓哉 様
 - ・和歌山県警察本部 刑事部 部長 林 達也 様
3. 来賓紹介
4. 役員選出
5. 令和7年度活動報告・令和8年度活動計画（案）提案
6. 決意文採択
7. 閉会の辞

第2部 講演

- ・和歌山弁護士会 民暴・非弁対策委員会 委員長 上岡 勇介 様
- ・和歌山県警察本部 刑事部組織犯罪対策課 課長補佐 尾西 弘之 様
- ・和歌山県警察本部 交通部交通指導課 課長補佐 榎本 充孝 様



開会挨拶：中村会長
(三井住友海上社)



活動報告：大高幹事
(損保ジャパン社)



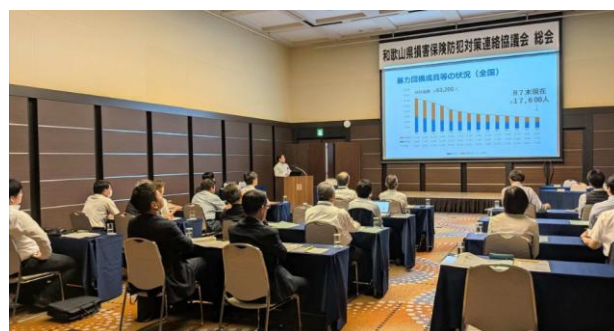
決意文採択：櫻谷幹事
(A I G損保社)



閉会挨拶：沖副会長
(東京海上日動社)



総会の様子



講演会の様子